

総合工学委員会原子力安全に関する分科会（第26期・第4回）

議事要旨

1. 日 時 令和7年1月20日（月）12:00～13:00

2. 会 場 日本学術会議会議室6-C(1)及びオンライン（ZOOM）

3. 出席者（敬称略）

越塚誠一、佐竹健治、高木周、森口祐一、赤羽恵一、浅間一、一ノ瀬正樹、岩城智香子、大倉典子、小野恭子、関村直人、筑本知子、徳永朋祥、中西友子、野口和彦、松尾亜紀子（オブザーバ）津旨大輔、山澤弘実（原発事故の環境影響に関する検討小委員会委員）

4. 議事

（1）前回議事要旨及び委員名簿の確認

岩城幹事より資料1-1の第2回分科会議事要旨について説明があり、承認された。

関村委員長より、資料1-2の第3回分科会のメール審議結果及び資料1-3の改訂名簿の徳永朋祥委員追加について説明があった。

また、原発事故の環境影響に関する検討小委員会委員の津旨大輔、山澤弘実両氏のオブザーバ参加を確認した。

（2）原発事故由来の環境影響に関する知見の進展・蓄積と今後の活用の課題（小委員会報告）及び意思の表出について

- a. 森口委員より原発事故の環境影響に関する知見の進展・蓄積と課題について、資料2-1の原子力総合シンポジウムでの報告資料を用いて説明があった。
- b. 森口委員より、原発事故の環境影響に関する検討小委員会での議論を基に、資料2-2の第26期の意思の表出の方針、資料2-3の意思の表出の申出書（案）、資料2-4のデータアーカイブズに関する記録（案）について説明があった。

意思の表出の方針

- ・第25期に実施したアーカイブズに関するアンケート調査結果を「記録」としてとりまとめる。
- ・第26期の意思表出は、処理水の海洋放出の問題に絞り「見解」として発出する。
- ・より幅広い観点からの学際的なまとめは、別途「報告」等を検討していく。審議の結果、これらの方針が承認された。

意志の表出の申出書（案）

以下の意見があり、これらに基づいて、森口委員が小委員会との調整を行って、申出書（案）を改訂し、委員長が確認の上、提出することとした。

- ・「2）読者・名宛人」は、記載の範囲が広いため、誰に向けて何をいうかを明確化することが必要ではないか。

- ・「３）意見交換の場」は、一般の方との意見交換の場があれば具体的に記載することがよい。
2022 年度の原子力総合シンポジウムでも科学技術以外で市民との対話を進めた。
- ・「６）連携」は、記載がないが、リスク認知など範囲を広げるとよい。
- ・骨子案について、更に取り入れる視点として、一般の方へのデータのわかりやすい公開／安全と安心、社会受容性／シミュレーション技術の今後の活用／自然現象の理解としての量的な思考／計測技術などのサイエンスの視点 が提示された。

データアーカイブズに関する記録（案）：

各分科会委員が内容を確認し、１か月以内を目途にコメントすることとした。

（３）「原子力総合シンポジウム 2024」について

関村委員長より資料３を用いて、シンポジウムの説明があった。

（４）その他

特になし

５．配布資料

資料 1-1 原子力安全に関する分科会議事要旨（第 26 期・第 2 回）

資料 1-2 原子力安全に関する分科会議事要旨（第 26 期・第 3 回）

資料 1-3 原子力安全に関する分科会委員名簿

資料 2-1 原発事故の環境影響に関する知見の進展・蓄積と課題（原子力総合シンポジウムでの報告資料）

資料 2-2 第 26 期の意思の表出の方針について

資料 2-3 意思の表出の申出書（案）

資料 2-4 データアーカイブズに関する記録（案）

資料 3 公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム 2024」プログラム（令和 7 年 1 月 20 日（月）10:00～17:00、日本学術会議講堂）

参考資料 1 原発事故の環境影響に関する検討小委員会 議事要旨（第 26 期・第 1 回～第 3 回）及び小委員会議事次第（第 26 期・第 4 回）

参考資料 2 意思の表出に関する日程等（第三部資料抜粋）

以上